増補 哥枕秋の寝覚 二

嶺谷山坂
洞岡滋閑
桑林

911.1
ウ
2

○嶺。付 根 嶽

嶺といふ題にハ山谷なとをいれけつとゐるへし 三根
なといひて嶺にもある也嶽も同し

八雲 あはれ見え 月 さゝひのミ 月 嶺つゝき こゝへ 嶺れ松
嶺れけり こゝつゝき 嶺うつり 山路 雲れ嶺 乃
雲の嶺れぬとうる文集の夏雲 奇峯多しと詠れあるき嶺とも 嶺施紙て よみり 多年れ 白雲のさ
やくる嶺 白雲の路と棚引嶺 やまけ 山高き 枕れ嶺 嶺をきり
嶺のかゝ 嶺れ旅人 嶺乃東方 白雲れ八重立嶺
端山ら嶺 外山乃嶺 みねこし よちのかはき
座しる嶺 出るる月 嶺のを 嶺つけ 嶺盛
木ゆる月 花咲嶺 をちれたる月 出る月れ嶺

大和 伊駒
いこまの嶺　―のこの根に　―のたけ　景物 雲 山の名にあり

新古今
秋しのやと山乃里やしくるらん伊駒のたけに雲のかゝれる　西行

駿河 磐城
いはきの嶺　景物山乃名にあり

玉葉
はるかなる紀岸木の嶺は雲の上にみてこそ富士の山よりも　家隆

近江 五十師
いそしの嶺　百済乃しきより　後　花　紅葉　檀
きくれ

散木
白妙の花の稍をみんにつきてはいそしの嶺とおもひしもの　俊頼

美濃 因幡
いなはの嶺　景物山乃名にあり

因幡 因幡
いなはの嶺　古今　霞　時鳥　月　建　松

古今
立わかれいなはの山の嶺におふる松としきかは今かへりこん　中納言行平

播磨 弥高
いやたかの嶺　景物山乃名にあり

まま
はるかなるしられはての嶺にすむ……　定頼

紀伊 今来
いまきの嶺　景物山乃名にあり

万九
いもらかり今木の嶺にしけりたつ妻松の木は古人みけん　人丸

美濃 伊吹
いふきの嶺　景物山の名にありけり

新拾遺
年月はいつもいふきの嶺なれや……　頼政

近江 伊吹
いふきの嶺　―の峰　景物山の名にあり

新古今
あふさかやいふきの嶺に……　中務卿宗尊親王

未勘 八日
やうかの嶺

日本紀
やつかの嶺に八日の嶺にあまくたりしを……

日向 遠日
とをひの嶺　日本紀　天孫降臨の所なりとぞ

続千載
かくしとをひの嶺にあまくたり天乃みはしら……　後宇多

大和 十市 とをちの嶺　高円山の辺よめり　里 高円よめり　村 同　郷 同　池 同

新拾 夕日さす十市の郷乃藤かへりみちもあるまじ秋のゆふべに 勝専

日 をぐらの嶺 小鞍

新古 白雲の絶間になびく山もとくらく花にや家は花白き

日 かすがの嶺 春日 高円山乃辺よめり　野 高円よめり　里

旧院摂政家元そ 君が代を春日の嶺の松のはけ(?)ゆく末まで見むと乃ことなる 下野

日 かづらきの嶺 葛城 高円山の辺よめり

詩 ・かづらきの峯より出る月かげの白きを乃流れは氷とぞ見し

花鳥 風越 かざこしの峯 ・梅 咲 花 ・霞 かすき(?)ぬ ・蟬 新六 ・若葉

・櫻衣 新古 ・月 夏月乃頃 風越の峯の雲ゆく ひく(?)りかへりとよめり ・雪 続 ・雲

名 夕越へ(?)れて 新六 山木 ふもとよめり 旅人 しるべよめり 新拾 ・木曽乃仮宿人 続

新古 風越乃峯をはけしき嵐ふく松の雲の(?)ぞ見る 忠盛

紀伊 かみをかの嶺 神岡 高円山乃辺よめり

新古 ・うらなきの嶺のあらしも神かくれさびしき山のみち絶て 為兼(?)

良 よしの嶺 吉

よしの山花の盛りはけふとてや雲のかけはし(?)ともなき

法師 明(?)姿の花ちりまがふ紙のくて

大和 吉

よしのの嶺 しらゐ(?)　しらくも

新千載 ・よしのやまひさしくとなれば花はきのふ(?)も流れゆくなり 為氏

高円山のほとりよめり 嘉里 同 瀧 同 宮 同

尾上 同 花園 同

新拾 ・雲ふかき峯の山の流れは名にやあるらむ花をしるべに嶺の嵐ふくらむ 後京極摂政

近江 横川 よかはの嶺

古来よめり 新六 花 新続 ・五月雨 新続 ・月 新 ・雲

杉の下水

これさへ山よりて よめり 新続 ・山里 同 ・煙

新古今 滝 ・墨染乃袖 洞 名所あり

新古今集 奥山のよしのの瀧に花さそふ風もとまらぬ袖やぬれなん 読人

大和 高天 たかまの瀧 名所也山乃所よあり

夫木 かつらきやたかまの山の白雲ハ瀧の花のさかりなりけり 祖

同 高円 たかまとの瀧 名所也山の所よ所也

万葉 小泉山けふ出ぬ月をこそ待つ花の白雲かゝるらんをなき 人丸

河内 高瀬 たかせの瀧 淀 名所あり 川 同 里 同

夫木 紅葉桜ちりもあへずて秋もこそ瀧の瀬乃白き 為実

紀伊 高野 ・たかのゝ瀧 名所也山の所よあり

続拾遺 今社たかのの瀧の月をみて浮世のちりもすゝかれ

播磨 高砂 ・たかさこの瀧

拾遺 夜の雨にまたるゝ秋乃瀧の松吹そよく 兼盛

紀伊 七越 なゝこし乃瀧

玉葉 たの月にかゝる雲消て光さやかなる月てら瀧 西行

大和 大 おゝの瀧 ・山桜 ・月 ・河面 ・雪 ・松風 ・まつかせや

・よしの坂 ・みつより山も降り

金葉 落たきつ人も山さくら花よりわれ知りけり 紀貫

同 大嶋 おほしまの瀧

新千載 嫁のあまりなる大和なる大嶋の瀧のせき 大納言

伊勢 久良部留 くらふの瀧

新後拾 なからなのくらふ宿そあはれと大内の泊

紀伊 吹上 ふきあけの瀧 浜 名所あり 浦 同 野 同 神 同

山城 木幡
玉吟 秋の夜と吹よの嵐は木すゑに横雲志らぬ山端乃月 慈鎮

こはたの嵐 三笠山の條にあり 建 婦しミの里 續合

月清 ・誘ひ行雲も嵐に山城乃こはたの嵐は何の音そ 後京極

同 小篠原
こさゝ原 三笠 里 日 ・雲 六 ・野 新

堀百首 打鳥の羽音坂山を越くれて小篠の原に雲路するなり 顕季

同 小松
こまつの嵐

夫木 くれてゆく秋や野を嵐吹小松の宿の床乃夜半 安貞

近江 小高見
こたかみの嵐 三笠山の條にあり 千載 志賀の浦 續合

古今 あすよりは人も根にしてとこの嵐の奥に落むとそ思ふ 後中天皇

未勘 古登巣
・ことすの嵐

夫木 嵐のふく岩打よせて秋もてく葉の宿に月さそふらん 堀九条

山城 峯宮
みねの宮の嵐 三笠山の條にあり

拾遺 ・なかれゆく花の山にしたかふ君はかことは宿にやみえん 八条前太政

同 阿弥陀
あみたか嵐 峯の宮 公 月

続古 名もしけくしけの音はさらさぬ名も嵐は分人をそさそふ 上東門院

大和 青根
あをねか嵐 あをねか嶺 あをねか嶺 万 吉野 千 桜 河内
新 糸 ・月 新 ・河内 拾 ・雲 万 ・雲 千五 松乃むしろ

万七 みよしのゝあをねか嶺の苔むしろ誰か織りけんたてぬきなしに

相模 足柄
あしから 万 吉野 みよしのゝ 續 ・ 後 音羽川合 きさきの小川
をとめ むしろ

万十四 あしからの嵐 三笠山の條にあり
秋ゆきされはあしからの山をあれはかくさぬみさしのの子 兼盛

信濃 有明
ありあけの嵐 三笠山の條にあり

服部　額田

御集 ・はるかなるあはれ野よりもかなしきにあはれはいかにひやかやん 後京極

越前 有乳 あらちの山 しのにも 亦近江山乃浦にあり

後拾遺 ・矢田の野に浅ち色つくあらち山峯の白雪 人丸

紀伊 東屋 あつまやの森

山家 ・秋をへて月待たるるはあつまやの森の梢に月はもるかすみかり 西行

未勘 夕日 ゆふひ乃森

玉葉 ・移りゆく夕日の影にやとるも花園のあはれの山 亀山院

近江 滋樂 しからきの森 亦近江山乃浦にあり

六帖 しからきの森の下草露霞晴ても物をそれよそなる

讃岐 白 しろの森 ・しろの森はしろの御墓所なり

山家 よしや君むかしの玉の床とてもかからん後は何にかはせん 西行

紀伊 檜原 ひはらの森

山家 ・なみされやひはらの森を越ゆくはすくに安宿も山それの森 西行

石見 比礼振 ひれふる森

続拾遺 ・ふえたてるところ津の上に隈てひれふる森とふる月かな 後鳥羽院

伊豆 伊豆 いつのたか根

万葉 ・まかなしみぬらくはしけらくさならくはいつのたかねのなるさはなすよ 無名

伊予 伊豫 いよのたか根

名寄 ・ろさえ見よのたかねをこえても人のりゆくを秋よにせよ 旧院大臣

甲斐 甲斐根 かひかね くひの白根とも 梨 青 ・雪 さくら 山里

古今東歌 ・かひかねをさやにも見しかけけれなくよこほりふせるさやの中山

同 ・かひかねをねこし山こし吹風を人にもかもやことつてやらん

ひさたとあさにしりてさやけりのね経てしほどしきくかまく　続古

上野　多胡根
・たごのね　入野　哥枕あり

万十四
たごのねによせつなはへてよすれどもあにくやしづしそのかほよきに　東歌

常陸　築波根　柏
つくはね　しの字も　哥枕　山の所にあり

万三
つくはねをよそのみ見つゝありかねて雪けのみちをなつみけるかも　丹比真人

對馬　對馬
つしまね

万十四
つしまねはしたくもあらなふかんのねにたな引くもをみつゝ思はん　東歌

紀伊　那智
なちのたか根　哥枕　山乃所にあり

玉葉
・雲消るなちのたかねに月閑て光をぬける瀧乃志らいと　元り

武蔵　武蔵
むさし根

藻塩
・むさしねのおほねにはひさし忘れ行君かなくさきておもとふすくれ

上野　久路保　根呂
くろほのねろ

万十四
かみつけのくろほのねろのくすはかたかなしけこらにいやさかりくも　東歌

駿河　富士
ふじのね　うの花　雪はけ　哥枕　山の所にあり

万三
・ふしのねにふりおく雪はみな月のもちにけぬれはその夜ふりけり　人丸

加賀　越　白根
こしのしら根　哥枕　山乃所にあり

拾百
・雪消れは猶たくらねよそにのみ見るや消さる越のしら根を　師頼

未勘　故奈　白根
・こなのしらね

万十四
とほしとふこなのしらねにあほしたもあはのへしたもなにこそよされ

相模
さかむね

万十四
さかむねのをみねみそくしわすれくる妹か名よひてあをねしなくな　東歌

近江　比良
ひらの根　しも　しもね　哥枕　山の所にあり　・湊　哥枕あり　・浦　同

・山 同 ・都 同

・拾玉
・さゝのくやまろまくれてしかのねのなくなる山かけの里

豊前 比古
ひこの山根
夫木
いまはとてひこの山根のくもまよりあかつきのそらにそてをぬらしつ

近江 伊吹
・いふきの嶺 ・三笠山の裾にあり ・名 あふみの内海 後京

六家
くれなゐのつまくれなゐにいろさえてなほいふきの嶺にかゝるしら雲 西行

紀伊 千草
ちくさの嶺
六家
・まけてゆくちくさの嶺のいろくさにうつりにけりなあきの夕くれ

和泉 吉野
よしのの嶺 ・奈良山の裾にあり
万十三
・み吉野のよしのの山のみねにふるしらゆきのまたきえなくに

同 金峰
かねのみ嶺 これはつけたるなり これよりたかきみねはなし
みたけの嶺よりのりこえてよしのの御嶽 家隆

・精進して精を潔めてみたけに詣つる
人麿の歌にくたしたる 万 ・その暁 ちくさの出世三 ・李の咲く
万代 龍田川より来て 龍門 紀の川 同
万 宵 同 夜 万 玄 おとをもとむ

万十三
・みよしのゝ高き嶺に降りてありつゝ 万十三 下略
高 高千穂
みちのくのかたちとひとの里 ・名 雲
万葉十四
・えそのみをひさしくたのみてその里ありのまゝに 下略

夏 鞍
つくの嶺 一本 菅見
万六
・仙舞火の流を汲みていつみてわれらのもとのまとはぬ

近江 大嵩
おほたけ
新勅
大嵩にこゑふく風の音すみて波の上にかゝるしら雲 忠円

未勘 ・くまの山 熊野

名寄 蟋蟀はなく〳〵いつかさむしらむ山さけともかとおもしれ 西行

紀伊 痛足 あなしの里 未勘山の名にあり

玉葉 風ふきてひはらの山のみなをしあなしの里にのこる村雲 後九条内大臣

信濃 浅間 あさまの里 未勘山の名にあり

玉葉 ・たちのほる烟もそれにうかれてあさまのさとはれぬくもかな 家隆

近江 小竹生 さゝなみの里

名寄 田上はさゝのはもさてはるゝ今や植の早苗かるらん 後九条

紀伊 吉志美 ・きしみの里

万二 あられふるきしみか岳をさかしみとくさとりかねて妹か手をとる 作者不知

大和 弓槻 ゆつきの里 ・霞 万 ・月 同 ・雲 名 ・河 名 河人のしと読り

承 ・神なひ山 読合

続古今 あすか川浪よる岸の神なひの山かさにけりさきたつもなし 允

有 木綿 ゆふの里 未勘山名所にあり

名寄 ・神代より神のみ手にかけつ〳〵ゆふかけてゆふの里人 為仲

近江 三上 みかみの里 未勘山乃名所にあり

夫木 ・しのはらやみかみのたけにかゝる雲の行まゝに晴れゆく 西行

紀伊 屏風 ・ひやうふの里 同名所に紀伊国屏風の浦といふ名所あるよしなき

しかるに急なる峰乃山伝ひ屏風のうけしきたり

かふらん乎をもて紀伊国屏風の浦のまへ

おもひまつふたつなし

山家 ひやうふにや心をかけてたのむらん紀の国ならぬ浦とこそ見れ 西行

夫木 巣立
・すゝら出る　山かり　小野 同
玉吟
鶯はこゝの鶯かはきくみな谷をいてなくらん　正徹

○谷　谷のこゝろ　谷つき　谷あひ　あさ
外谷のし 康　谷れうそ 行組　うれつれ谷　谷めかし
続 明日くれの谷　のかれ谷　谷の下たる　谷たち法
建 韮の谷　ゆり乃谷　谷うつく　谷せゝく　谷乃仏
つれ谷　とくれ谷　谷の下庵　谷の松　谷れ埋木
谷の杉木　谷陰　まつ乃谷　八雲 浅き谷 同 よる谷
人名 花谷 同 霞の谷　谷の鶯　谷のうち　谷の戸　谷の

ゆふ　谷れやう　谷水　谷そこれ谷　古 見えるかれ谷
谷の夜雨 点 ふかき谷 同 谷の細石　谷乃扉 建 郭公
送りかする風 新勅 うら山の谷　谷陰の家 新六 くらふ谷
谷かけて 古今 埋木乃谷 定 やめる谷 日吉社 萩山の谷 新六 谷嫁
くちる 同 谷名
山城 霞
ゆとくの谷　陸奥有同名　八やくに霞の谷深あかくとく
鶯をよめり　吟 ・谷の下
古今
春あさき霞乃谷よかけりはしるのふれもなすやハわぬ　文屋康秀
陸奥 霞
ゆすら谷 坂津 浅きみ霞の谷は深くれ八秋やないゑりそよるは　源忠良
夫木
・かくろ乃谷　吟 雪
玉吟
いつけくの雪深くれうかきその山々乃谷よりかそのやへ　正徹

播磨
・おほくらの谷　大蔵
みかさ山をさかりて大蔵谷といふなるそて
月雅
今もふるさいはし浦なりまさ時なぬけのやひか　忠岑
大和
・くめちの谷　久米路　・河　・紅葉　・月　雪　橋　神
名寄
くらきより久米路の橋は村霞に絶ぬ橋をかりさかのなり　経房
未勘
・くらの谷　久良　万　鶯
万十
鶯のくらの谷にうちわひてやけいはしぬともきなかまりなん
同
・まつの谷　松
夫木
松谷の風いかならむしら衣すゝしき標の色かそふ紙　慈鎮
近江
・こまつの谷　小松　・子日　・雪　・室原の雪　・山　家集にあり　・湯
・浜　・泉　・里
夫木
行くこれ小松か谷の松の色は数ても花のみかはひらく　慈鎮
同
・さくら谷　櫻
猶ありひさしく不詳

大和
夫木
鶯の声や桜谷よりおちくる波も花咲ちれありけれ
・ゆきゝの谷　逝廻　・さわらひ　・岩　家集にあり
夫木
山人の足木にまへ付てゆきゝの谷のさわらひ　為家
丹波
・しら谷　白
名寄
おもひ子しら谷水は底みえてかけれもあかぬ世の猶かなりけり　匡房
大和
・ひはら谷　檜原
夫木
秋にこのはさ月の色をそへてひはらの谷は色そくたりり　光明峯寺入道
丹波
・ひらの谷　平
藻塩
おもわりひら谷水は底ふかくなり秋を世の猶かなりけり　匡房
未勘
・すきの谷　杉　名　鶯
名寄
杉谷のふるすはやるらんひとのなく秋去れなたかのかれ　実仁法師

○松　松本　松本の桜　松山さくら　松嵐
松川　松かさ　松そく　浦乃松山　松しくれ　しくるし
谷の松木　松人　松本ある　家木引　舟風音　西東の
つか　狩りその渡子　松本ある　陸奥　椎原乃松本　科乃
いつきの松　松ある民　蓬ヶ松　こ渡つり　みちのくと
家松　くさす松木　千引の渡子　狩末れ松　松の木
松そて入山人　松に入り乃引　科の松本　まけさ松本
いつくの松　花　康　ある民　家木引　松のいつし
谷の遠路　・古りをたくす　・雪
・家本門泉乃松よ立民のゆむよ凡りあく恋ちく渡りも　人丸
・いつきの松　いつくゆある身ても思へ名凡科のいつ見れ松本ちかねく

大和　丹生
よしのの杣　川上のと読り　椎　杣　まち
・杣人のとるぬ椎とくあくるかく丹生の川原乃あり身の比　ひさし人　・ぶりゐ　・川
近江　小比叡
・さひえ杣　雲
日吉社行
さひえや小ひえ杣よ立うき引いつ凡の杣宜ら祝そあらん
同　我立
わかたつ杣　伝教大師叡山中堂を建立乃時よみ給ふ
寄てよりて松本てうちよせくる河の音
阿耨多羅三藐三菩提の仏たち我立杣よ冥加あらせ給へ
大和　和豆香
・わつか杣山　花　時雨　康　椎原　杣原
わつか杣...

同 高見 たかみの松・しのゝめ 早蕨 ・わかれ 万代 同 ならの木引

拾遺百首 初恋人もかくるしきかひとなるたかみの松よならの木引人 大納言隆房

同 くら木乃松 杉木 新古今 こそのふゆふしと詠り 新古 又なきさらねしとも

千五百番 ことしやしなくしてけり ・花 新勅 ・もみち 新古 ・月 新今 康

・雪 新勅 ・夜 拾遺 谷乃埋木 仝

合 ・年ふれとをもすきかねけるゑや杉本乃松の若枝埋木 家隆

同 あかさの松 杉 かくされ 急 千 名本引

未木 ・みなかみも梓乃松よ見ゆ〇なく久しれたまらくかくしさする 読人不知

同 三輪 みわの松山 現存六帖 見なきき返りはみねたつ種代松山嫁そへ来たる

近江 水尾 みおの松 ・こゝろやし 桜 ・五月雨 ・月 ・霰 ・雪

淡右 ・氷 川 ふれとも川 枕 新千 枕 新拾 桂糸 ならの木引

彩鳥 まれ木 杖くれ 山 京わわり 浦 同 湊 同

ことしやみねの松山あとえて我も雪もふりきかくる 家隆

同 滋楽 しかきの松 京わ山の西にあり ・里 京わあり

今 わくふ雪ふりかれしかきのまた紅松山於征ゆかん 隆源法師

美濃 日高 ひたかの松 風雅 ・世を照と見るかれ松乃ならわ志けさ出彩よ今ちあり 前石之後

〇坂

清坂 あつまの坂 こさか こちの坂 志のの坂

のぼる そゆる こゆる

山城 稲荷 いなり坂 京わ山乃緑よあり

拾遺 ・みそくさく宿と出ていなり坂の名れ人そら祝人かふ 忠房

坤分 旬都婆多 いはそくこの坂 京わ山の西にあり

駿河 呼
よひ坂 武蔵とも云 [illegible]

又 名 たこのしま

摂津 [illegible] 坂 [illegible] 池 [illegible]

伊勢 [illegible] 坂

[illegible] 坂

[illegible] 坂

大和 奈良 [illegible] 坂 [illegible] 里 [illegible] 都 [illegible]

[illegible]

山城 [illegible] 坂 [illegible] 里 [illegible]

碓氷の うすひ坂 山 [illegible]

大和 大 [illegible] 坂 [illegible]

紀伊 八十須美 [illegible] 坂 [illegible]

伊勢 招 まねき坂 [illegible]

紀伊 藤白御 ふちしろのみ坂 [illegible] 松 [illegible]

山 [illegible] 神 [illegible]

[illegible]

相模 足柄御
あしからのみ坂　　富士山の北にあり
万十四
・あしからのみさかしこみくもりよのあかしたはへをこちてつるかも
武蔵
・あつまの坂　万十二
いそのきに我妹かそてもふるさまてあつまの坂をこえつらん　読人不知
美濃 赤
あか坂　　はし　紅葉　・月　玉篠
夫木
・ちらはちるとも色にてみゆるあか坂のもみちもまたなきかな　信実
同 相
あふ坂　　富士山の北にあり
・月をみてこゆるあふ坂のさもせぬへくせの本にある
摂津 讃
さぬき坂　　富士山の西にあり
万九
・山代のくせのさぬき坂ゆくひとはそのはしのあきはちりにきらり　人麿
信濃 木曽
きそのみ坂
続古今
花　呼子鳥　河鳥　紅葉　ひさきする
小篠

・夕日さす　紅葉　しくれ　桜
続古今
・たそかれの坂のこのはちるゆく袖もかくやそめけむ　権中納言定房
摂津 湯
ゆ坂
名寄
ありまのゆ坂を越えて見渡せはまつ木たかくありまかはのみ　安嘉門院四条
紀伊 行相
ゆきあひの坂
万九
紀の国のゆきあひの坂の葉にふくさるなとみせんとも
武蔵 御
・み坂
名寄
ちはやふる神のみ坂にぬさまつりいはふいのちは妹かためこそ
万四
行
・すく坂
君かあたりみつゝも坂の名にめてゝわかれし命もまちなく
○洞
菩提の洞　洞の松風　藐姑射の洞
仙洞の事也
みよしのの洞　にはとりの洞　苔の洞　いはやの洞
松尾
いはやの洞　いしのゆか
嵯峨
片山洞
同
横川
しかくの洞　・秋　・月　・花

夫木
[illegible]

紀伊
たか野河 高
夫木
入日の[illegible]

下野
もみぢ川 紅葉
夫木
[illegible]の月[illegible]

○岡

新拾遺
[illegible]山の[illegible]

むかひの岡
[illegible]岡の[illegible]

[illegible]の岡

・[illegible]の岡

・岡の[illegible]

武蔵
石田
いはたの岡
[illegible] 杜 同

夫木
[illegible]の岩田の岡の[illegible]

陸奥
磐手 提イ
いはての岡 杜 同 里 同 関 同
・[illegible] ・[illegible] 山[illegible]

夫木
[illegible]

紀伊
岩代
いはしろの岡 神 同 ・浜 同 ・崖 同 尾上 同
万
[illegible] ・[illegible] 松 [illegible] 杜 同

万一
[illegible]
中[illegible]

[illegible]
稲村
いなむらの岡 山 [illegible]

[illegible]
[illegible]

紀伊
今木
いまきの岡 山 [illegible] ・[illegible] 同
[illegible] ・[illegible]

名寄
・花浪のちくさにあらそきえしいまは紀の星に吹てくゆく　続古今
撰集
・いさよひの星　射技庭　万三　いさよひは星よりしてこふかひいてこひいて二石なるの　新六
手鏡
いりひの星　入日　名 紅葉　月 河風　玉藤　嵐　こかねの
続古今
はるかなるくの勝原かかれて入日の星に雑子なくなり　土御門院
月
・いなみ星　仰太宗　万 霞　万 ておけ稲　続合
月
・それ星　離
万四
あひそめてせやいかなるいふとも秋やこたこの見終かしに　為氏
歳
どうりの星　降　続古今
行山の誕生は星のそれ星夜ぞ涼し庵やけしん　一条禅閤
月
とし星　鞆　都暦
夏かとよ涼の星は河る去のひもあへね夜すの一声　良基後
月
・雪　・夕日　藤と寄る浅り
梁塵秘抄
このはいつは星そとねろろく秋さしる鞆星乃笹
春熱
・ころみ乃星　跡見　万 桜子

雪玉
よろしく織女とうしに秋乃きにしみの星迎はみくの歌八
月
・ちさか星　千入　まま 深くをしらに星の夕河風秋もつれよく治ろ柏葉　後平
山蔵
かさ星　斤　秋吉 河る　月 ・霞　月 すゝき　月 ・霜雀　芸撰 ・寺くさり柳　あさひ
蝉　あさち　名 紅葉　・月　名 ・しぐれ
春撰
・岩根　風 ・苺　新古 松　杜　藤都　・神　月 ・小篠ヶ里
春撰
うき星は木隠すくろふさしにれ河音涼しゆく雲の宅　衣笠内大臣
・斤星やいうさう原　拾玉 ・みくらし川
神楽
かさう星　しもの星　・うくひすを　千 河る　千 鈴虫　千五百 松
名寄
・君か世を行らいのりれとる星彩もあすもれさやえりん　衣笠内大臣
月
春名
うき星　斤　子 ・まつ夜　雪 ・うくひすを　子月　はる　梅　桜　つゝし蕨
子 ・春夜　拾秋 雑子　子 河る　萩　続秋 凍　鴈　浅茅

・鶴 ・雪 橘 冬葉 松 竹 下葉 すその
山 小松 哀傷かり 古 わしの尾
古今 音立て鳴そ鳴なる岸の松のうへはかならず忘れん 読人不知
日 形 かたちの岳 松 哀傷かり
万十二 かへり行く雁の岳のかたちの松のはひそくれてゆくよしもなさ
神南備 かみなひ岳 山 哀傷かり 杜 日 里 日 川 日 社 日 渕 日
夫木 橘のしたゆふかけて千早振るかみなひ岳につげこそ鳴 伊勢
日 隠 かくれの岳 名 きし 山 哀傷かり 松 日 池 日
夕 けふ暮るかくれの岳のかくれにもあふて年のへゆきたへ 仲正
亀 かめ岳 ーの岳 とも 拾遺 つる 松 小松原
古今 ・万代よをかさねてもゆめのうちに松の岳なる松のみどりへ 大伴家持

陸奥 斤恋 かさらひの岳 玉篠 ・杜 哀傷かり
六帖 陸奥にありといふなる斤恋の岳我身にそふ恋ぞする 枇杷左大臣
未勘 假寝 ・かりねの岳 夫木 秋の夜のかりねの岳は寝覚の我がよしや 読人不知
日 諸 ・かさらひの岳 夫木 うき身のみふく大河になれはてゝかさらひの岳
紀伊 鶴 ・つるか岳 くひと ・郭公 ・名 松
名所 つるか岳あまた生ふる松を吹風の音はたひく万代の声 基氏
武蔵 都築 つきの岳 葛 原 哀傷かり 那 日
夫木 いかさんつきの岳の葛の葉の裏見てのちはみもうらみぬと 文殊
陸奥 山榴 ・つゝしの岳 六帖 つゝし 六 さくつら 拾遺 あせびの花
拾遺 東路やつゝしの岳にうつろひておのれのすそにさそひかへる 兼盛
讃岐 双 ・ならひの岳 並べて見るはなせて折りかへすならひの

岩かくれ松もなくひと絶り　花　すみれ
清し　蟬　鹿　紅葉　・月　かつらや
・河鹿　・雪　松の　小篠原
ふりくる　浮ひれ岩の　・擣衣聲
秋風よ立ひかれて吹きいあふひれ岩乃かつらや
なつ岩　花さとし　・鴫の羽かき　篠槙ひる
・月つく乃庵　里
岩屋や月つれ庵のあれまくれ夜えいさなよ鴫の羽かき
あしの岩　・吹風とし　・秋てとし　・ふらくの
・唐衣きうし　・露　桜　梅　呼子鳥
紅葉　鹿　鶉　・雪　篠　かなかや

さゝ波や　・山　・いなりの森
・あしたの岩の河音そよくてゆきかふ浪きるや
あくら乃岩　かくきに　みち
行よれあこし岩のまつくの杉あしぬ身へ杖を出つさき
あさちの岩　かくきふし　・まくらとれしたとつけら
桜　卯花　・庵　・河鹿　鴫　松　森　文
あそくへなきさの岩ゆかけてうかれくるあすすみ
・ならの岩　郭公　里
しれからあつめれ岩を来てとれし庵のとゑけさ小笹原
ゆうひ乃岩　・むさしのし　・衣裳　菊　紅葉
・月　・雪　・雪　鶯籠　松　・稲餇

○百四

新勅 むさしのゝむかひの岡の草なれは根をたつねてもあはれとそ思ふ 小町

未勘 ・うしやの岡 牛屋 六帖 おもふ事をうしやの岡はいかなれはたゝそてぬらすものとなりけん

大和 ゐかひの岡 猪養 名 ゑこゑのみし 万 ふるゆきはなし

・かくまかくしたてゝつけゝり 康 摂衣 ・万 わかせこ

万三 降雪ハあはにな降りそよなはりのゐかひの岡乃寒からまくに 但馬皇子

日 ・くらはしの岡 椋梏 山 家持 宮 日 川 日

名寄 ゆふされはへくらはしの岡のへのおもかけに見ゆる宮 匡房

豊後 くら岡 倉 未木 しかすかに手まつ岡にをかぬとも露のけきよもかたしきの人

安芸 やまかの岡 八臨 新勅 紅の・ 名 岩つゝしやしなはしけゝり

岩つゝし 新勅 紅葉 楢 玉藤 ・河辺 名 あらし川 続人

続古 ・深くねん仏岡のあつまとゆかしはうれてみしそれそのむかし 邦季

甲斐 やまなしの岡 山梨 山梨の花 ・新 月 里 家持あり ・名 ほとゝきす 続古

続古 あしひきの山なしの岡に行く道のあらぬ方にて思ひそめけん 読人不知

大和 まゆみの岡 真弓 ま 萩 万 露 紅葉 まゆみ ・あられ

万二 よそにみしまゆみの岡も君ませはとこつ御門ととのゐするかも 舎人

長門 まりふの岡 麻利布 不輪 方与 まりふの岡行さかへりとなみかくる浦はいはくて 読人不知

未勘 ・みちのくの岡 巻来 文木 思ひねへやそさかしき深山のあらしの岡に吉野の… 万葉二十四下

大和 ・けはしの岡 毛血 万八 神さひのいはせの杜の喚子鳥けはしの岡にいつかまたなん 志貴皇子

安芸 ふなの岡 船 紅葉 松 子日 ・蕨 卯花 郭公 秋 苅萱

新古 御幸 花つゝし ・すその原 紅葉の縁なり

六帖 ・ふなをかのうへの桔梗さきにけん行て見るへき方やいつくそ 之子

山 家持あり 雪 月

大和　あそひの岡　遊岡　名所
ゆく春の社の杜は名にしてあそひの岡や行かへるらん　とうこ

近江　・あさゐの岡　浅井
夫木　秋かせは浅井の岡に小笹原結ひやとるらん千代の神かき　隆源

未勘　・あとみの岡　跡見
万　とみの岡とも　梅　万　なてしこ

名寄　あしたれ乃あとみの岡に玉かつらかくろへなくはけしきもちるゆき

大和　さたの岡　佐太
万二　檀の林乃ま

万二　朝日照るさたの岡へにむれゐつゝわかなく涙やむ時もなし　舎人等

紀伊　さのゝ岡　佐野
家　藤とよむ　書　ゆるす

万三　秋風のさむき朝けをさのゝ岡こゆらん君に衣かさましを　赤人

ひさをかすみにへたれても

未勘　・さなつの岡　佐那都良
万十四　さなつらの岡にあはまきかなしきか駒はたくともわはそともはし

山城　さねかさ岡
松玉　ゆるす　日　芹　岩つゝし　協　菜　蕨

岩根松　山　名寄あり　・あゐの文　日

協石　・秋といへはをみなへしさへ咲さねかさ岡の白露たまるらん　師時

岩代　きはつく岡　波波都久
万十四　・きはつくの岡のくゝみらわれつめとこにもみたなふせなとつまさね

未勘　・くりふの岡　切蒲　一字加生
名　はつ蕨　名　月　菜　若菜　行

松玉　わかまつのきはみの岡に菊のさかりは世にひとつきの神かきのうち　文治

大和　ゆきゝの岡　逝廻
往来の人を待り　名寄　旅人のしたてつきまつ

柳　早蕨　凡　花　名　つゝし　河骨　卯花　万　萩

名　薄　夫木　葛　かつらや　若菜・すみれ　顕昭・蓍　清・菊

小篠原　・万　あすか川　浅久・入谷　名寄あり

新六帖　・あすか川ゆきゝの岡の秋はきはけふふる雨にちりかすきなん

山城　みつの岡　御輿
夫木　小松のしと待り　わらひ・菫・萩　御・御幸

・かんなし岩ほそのむかしにはまさへてきのふのころにもさを神そしるらん
見遁　みまかれ岩　けふくともみやのれ岩のいはれ社みかよせのとはつゆかくれ
水豈　みくさの岩　砂・おりゐ・岡　河辺　嶋　厂
松　森・月　竈杉　室原　浅茅・岩
・雪・垂根・笹　田　湊　岩乃かたさ
あまの岩ほやうちに姉とわれとわての秋ものあれかうりも
かうられ岩くゆくりのあまの岩乃かとへいろはされうり
いつれもかたにあまさされりのあまもは在よりて立おかしな
・さかきの岩　みかさの岩へはそかわら花さき出そのにさめてものらん
・みちのれ岩　あつるおもちし風岩の神屋花をてうりて下れがそひわりとい
・みけ岩　・子日　松　かはさひころうし　あれのした葉

・いにしへの子日まつ世にあはん神さびてろうとけりの松
河内　志のひれ岩　・下嶽　河辺　嶋　康　笹　草　・杜
・ゆくへもおもひわかて河内ひろしのひれ岩りたもとへん
摂津　志のふの岩　まつひ　流し　河辺　厂
・うらと・菅原　山　杜　浦　泉　里・浅　嶋・月
・ゆくさきのたえ岩乃おもふむおもひあられておけるらん
・あすへの岩　村消しすもかれてみてうれあるへの岩へはそつあれう
かくれさ岩　わくきよすとするうれう我このくる岩
・ひえみの岩　年もうれてあへせ流れてくちらん今は岩の松のうつさよ
・すみよしの岩　岸　里　杵　渚　浜　家
住吉の岩乃松とさけつかれて面りふうともいなくのはきし

巌

未勘・すくもの岩 須久毛 一本清久藻

名寄 ゆふされはすくもの岩の秋巌たてるとしてもしる人つらし 新拾三四下

・乃 すくもの岩 巣立 名寄 まつ風すくも岩の苔ぬなかれ今そ作かな 小町文

○路

頭 八雲 ふるちとも やまとち 山ち 諸 家ち うけち

苔の通ち 八雲 かよひちとも 湊ち 水ち 水無瀬とも 関ち 濁ち

あみち 雲ち とほち 旅の通ち 新六 中原の 草ち

かよひち 別ち ふる路 中道 下路 上道

塩ち 細路 あつまち うらち つくしち 波路

あさち なにはち わかち 海ち こちち 船ち

足つち 新葉 新中 わつさち 丹波ち きぬち 紀行之

○あへの市ち やそ市ち 陸奥 みちのく ひさ乃かよひち

かけはし路 秋のよの下道 万葉の下 岩のかよひ 紅のすそこ路

岩のかけ道 已上八雲 拾抄 菅のをかち 汀そひ路

をれ下路 君のまもて 七乃道 世をすくる路

あせの細路 なれ路ち 山の細道 細路 山の下 [illegible]

ひかれあみち 八雲の路 和歌の [illegible] 関ち きし路

柴の下みち 車とくる路 そともの松ち

谷乃下みち 岩ちち 以上未来 はしち くろきち 苔みち

あらいかちち あら路 汀そひ路 志のゝめ

乃路 ふるのけ路 宇治ち 已上同 新六 道乃をかて

・頭 新拾 きつち路 新六 岩城の道 新六 ・神つ路 ・あら路

・秋の野ぢ ・小笹中行ぢ ・しられぬかよひぢ 高山の雲をふみ入る道
・山人の道 ・さとのみち ・かりさり ・秋の山ぢ 竹の下
・かれかゆく ・野のとほき ・古の見ぬ道 ・おけ山の
そうひみち ・浦のかよひぢし 難波の海 ・花のかよひぢ
・岩の細道 ・かくれもなき ・山のかよひぢ
・世をうらむ道 ・かよはまり ・野のなかそれみちつき
・野のさまり ・かよひさけ ・人なれぬ道 ・おとにきく
・道あり ・野路 ・岩のかけ道 ・洞の道 ・ふるひの道
・いはみち ・まかきのかけち ・うらみちすぢ ・表道
・かよつき ・かよひのうけ道 ・道のちまた ・うけの細道
・かけ道 ・道のとくめ ・かよはくて ・やまぢち

・かすみの道 ・嵐の道 ・かよひの中ぢ ・すぐしき道
・まよひ道 ・わきまえぬ道 ・小坂の道 ・つらなる道
・海の中道 ・墨繩の道 ・道へ ・かよひぢ 風の
・野の人 ・みちしば ・そぞろ道 ・家の道 ・道すがら
出雲
いつも路
花のさかりにいつも人さそふ春の花もちれはひとつ歩道かな
摂津
・いくた 活道
万三
たまも見えのみてあかぬひとし活道の道にあれとも
花 山
万
のとせ川
吉野
・いそこせち 巨勢道
万三
さるれはいそこせちなるのとせ川音のさやけさ瀬はなれてし
伊勢
・いせぢ 伊勢路
大和
・とよせち 初瀬路
夫木
とよせちにいせちしのぶ川ませをやくれるとみえぬと

万
信のの御佩路ハとこふめのうへに道そこうくハ　人丸
まへ
まなくくるしき花咲しあてこの御佩らやからくりそ行　仙ろ
山城
・こころら　玉葉　新拾ちと秋こえし花いつの涌やかさ小野の浦の　続後撰
千代
ちよのふる　・続古　松　・新古　月駒　・さら野　続拾
続古　子日　新今　しつる　・新玉葉　友葉　・旧　玉葉　・新今　雪
同
山城
さらの山清音路ふしせら川の千世のよふる名流ハあらそふ　行まて
小野細
そのはそ　新拾　しのちゝ／＼岩ねとも　子ふ　はしれうむちとも　・拾　御苑　・新拾　友葉
後拾　月　・万代　萩　・子ふ　雪　子　志宋ろ秋　岩むろ　山ろ
里　同
大和
迦留
かつらき　子ふ　・ほとれくハ名かしくそさよ御苑の雪とくふる小野の西路　家長
万二
かなよ中かつのらよハ月雪ふるの里ゆしあれぬ　下略

同
立田
山城
丹波路
たつた路　夫　あさち路のさくれ葉ちらむハ秋の上より織　和歌名所
丹波路
たには　万　たにはのれ大江の山花まう絶えぬ我おいかへ　玄
築紫路
・つくし路　万　築紫路のふかぬかりかけても君か手に結へてとさん　言
大和　奈良
・あらの大路　あらも　それ　井ての山吹　続拾
万五
まさらゆらあれ大路へ路よけしはる人ハわふるまそう
摂津　難波
・同　あふハ路　万五　あかからてとりてみすてし五条あつかはりやそくれ
長柄
・同　あふれ　新六　かまれ往里の名ふ流つき路かる枕そろへき　家
武庫
・同　むこの山道　山　陰　津前未勘
山城　中治
くら路　新撰　宇治路けまことみちは路のこほりかさ衣と衣の路の　新撰
後撰　宇津
くらの山道　ちも　つなの細道　山　陰　かわ

家

・秋玉 みちのく萩の花の露さけくなほさらにいかて乃山みち 恵法

井手 おその中道 ・山吹 ・山 ・蛙 ・浦 同 ・田 同 ・川 同 ・里 同

・玉水 同

新古今 こゝは井手の中みちへ行ともいとゝてぞ山吹の花 社因法師

・拾遺 猪名 かよひ中道 玉木 山吹の社を見ぬ井手の中道

・名寄 野 名 しの細道 とも 武名野往想名也不泯近江一所

・詞 狭名寄 紀乃南郷南乃泯名出く 名 萩 同 くれなゐ

名 忘れ 秋 雪 名 篠原 小野の 山 浦 あり 玉川 同

小野 同 名 かすらやし 秋 あやまちの

新和 あまのはらの里も末の秀流に行も二所も神そ声わく 猗子内親王家紀伊

残中 大野 恋の道 万 大井河はるけき秋の夕くれはよしの廣く

・言口 野島 の海乃道 崎 浦 あり

名寄 ふくるまでも乃の浪立つ妻の水ぬれたるをも待つらん

・大和 久米路 ・くめち 後拾 花 万代 雪 千 若 橋 浦 あり 谷 同 川 同

拾遺 しろくきの久米路の橋にあらぬ社ねかへりそれせぬ 読人不知

・山城 ・やましろ 山城 万十二 やましろのいはたの小野のはゝそはら見つゝや君か山路こゆらん 読人不知

・大和 大和路 ・やまとち ものゝ萩原

万十三 やまとちをおほつかなくも大和路の日はくれて行かも 人丸

・肥前 松浦路 ・まつらち 万五 まつらかはかはのせひかりあゆつると立せるいもかものすそぬれぬ 憶良

・大和 布留 ふるの中道 貫 ふるのとも わすれ ・いそ 玉 ・まき 後拾 夜半

・六百 露 同 小笹原 貫 紅 ・紅葉 ・神世山 読人

・八丈 いそのかみふるの中道なかなかにみすは恋しとおもはましやは 貝紀和下

三河 二見
・ふたみのみち　万三　妹も我もひとつなれかも三河なる二見の道ゆわかれかねつる

紀伊 巨勢
・こせぢ　万六　まくらはしこせぢから岩瀬ふみそこそ行くへ思てしかな

大和 佐保
さほぢ　・梅 万　・柳 同　・芳 同　・萩 同　・薄 同　・千鳥 同　・ほたる 同
・さほ風 万　・さほ山 万　後拾

拾遺
佐保川の柳打なびきさほちかき山のかけぢは霞こめたれ　拾遺

下野 佐野
さのゝわたり　夫木　いとゝしくさのゝわたりの秋風にいるさの里のあきそかなしき　新撰

信濃 木曽
きそぢ　きそのかけぢ　橋 名寄　坂 同

名寄
・けさは風わたらの桜咲くらむ風のそよぐにあはれなる　後拾

大和 三宅
・みやけぢ　みやけ原　雲 名寄　原 名寄
万十三　父母にしらせぬ子ゆゑみやけぢの夏野の草をなづみけるかも

近江
・しかのふるみち　一の浦に　しかのうら　夫木

夫木
誠にやきそのかけぢのなかにはわかれてもあふさかの井はなるらん　み家
同
ひとり人ふしてもみやまかけのみちはかもすとも行くへかなし　新撰
信濃 信濃路
・しなのぢ　万十四　しなのちは今のはりみちかりはねにあしふましなむくつはけわかせ
名寄 安田
せきのみち　橋 名寄
名寄
いはとをも世にしらせてはるかなる月の海　続千

○関

関守　関戸　関の戸　関のなかり
関路　関のこなたに　関の名　関の清水
関の名もなき　関世乃関　関守の　関の外
関屋　関の関守　関山　関の扉
・関のやすらひ　・関の関　・関のや　・関　・関の関

・関路の実　・しのふの実　・実やの板庇
・実ある波　関乃外山　・実吹のから塩風　・実かすゝき
・中山実る　・実の　・よけて見ぬ風の流れ乃関く
・みさゆけの味ゟ実　こゆ　冬さへ　こつる　わくら
関路の霜けふ奥義抄よの中に付岡氏乃
みかとて帝王のしのうつりて吉ゐれいゆかとつけし宮の
実にいりてもなかなかしと云此の実へ安積浅香立雨浪ゟ
陸奥　磐手
いはての関　・さ旅やしとつけたり
岩日　杜日　里日　篤　森　山
・人めかる岩よの実へかてけると云つきるへと旅しさりなり
妹賀
いもり実　これやこの近江さ旅み林味の実とひ出とへかゝくたる上旅し

陸奥
けふかの実　人のそけくちの実たまくあり
末本
錦して立河くおしくさゆかふる菜の色にたるかの実
刀奈美
こゑくの実　中紅ら見しく旅り　河る　・雪
月
こうひく　・松
いはくに秋岩いでん中紅ら我とよろみの関り桃そのあり
小山田
をやまろ実　わ雪を尚代みよ旅ゟせてきこむ上いふ小雨の実
陸奥　柿
ちくさ人乃実　鴈　池　ちり
・三絹よもたさく人の実れおしきせいやとく人ゐれくしてけまし
河口
かはくちの実　実のわか草　実のくれねさ　・月
・河口の実れわしゝれまお花も出てくまれりぬ西のくれ
霞
かまみの実　・霞　花　時雨る

新拾遺
後よそにのみ見て無瀬乃霞の実もまたそられけるか　読人不知

執心
かやの実　刈萱　・夕立　・志のや乃彩

新古今
かやの実やなんのかへてつひへ人をゆきさね乃へたりける

河原
うへすひの実

新六
ゆそひの実のかゝるおほ拾てかく所こゝろの下に待つ

陸奥
かそそ乃実　奈古曽　呼子鳥　・陸奥のし　・無瀬のし　・霞　・桜　・鶯　・蕗　・まつ鳴　・志の乃森里

長門
・かきの実　長門

古歌
立よらむ新ひくつ近江れ作らかとてみ乃実をすへらん

身のそでもゆらかるなへて命ひとつの実まてさ

新拾
ひやくの実　無耶　武いらや　くしやや　いかむや　りかく

なしわり　・どやくしのれし　・雰　・雪　・しくせむ

古今
・こしやまとそやわん乃やこのとやくそられもやくの実

河内
うらひとの実　鶯　我宿にまもつまれるそこそもとあなの実

伊勢
やまとれ実　久波田　わ淀るくさそれ実と河内渡れのとれ花

・くまの実　隈　月　雲

六帖
ひさかたの山とのゆ乃底の実にかゝる底りし君とそるらん

美濃
ふいの実　不破　ふいの実　われらよりともれ捨り人とまねし

まつりあるしなくまかり　花　・霞　・鶯　・河

松島
・紫　・志くれ　・おもき

松山
板屋　錦　・霜雪　・夕立　・山谷の山

夕日
板ろかの月　・夜

新古今
家
こつくの実　本院
人とあふいの実やれ枝ひとつ葉山後にて秋のりかる
山　里　川　峯

古今
きみやこそこの関は鈴かけ松のかくゆくかすみかな　ぬ君

後撰
小鴫
こし波が関　・名　まちてゝ見れし

堀百首
恨わけてくるとかへる橋の小鴫の関にかゝる衣かりにも　俊頼

後撰　衣
ころもの関　桜　郭公　新後 紅葉・新葉 月・旧 霧・堀 白雪

・雨・新 旅人

未来
・ゆきもちる衣の関ときゝてこれ人てかへまを浮るみまそり　千載 円位

旧　衣手
ころもて関　宝治百首 頼まれて[illegible]すを[illegible]かくもさしき　新内侍

肥後　心
こゝろの関　宝治 夢と[illegible]の関[illegible]別れ[illegible]ねと[illegible]　心の関

堀百首
てゝ波の関　きりも[illegible]思ひ[illegible]関を[illegible]秋[illegible]師頼

和漢　足柄
あしから関　新勅 ・霞・拾玉 月・続拾 ・雨・新勅 霧　旅人　網　旅人の[illegible]

続古
なまや　・白檀　山　新葉・雪・旧 小枝　旧　[illegible]

・あふの山　旧

拾玉
あふ坂実とよみ人越ゆるてゆく月の小網を流るゝて　慈鎮

千古　逢坂
あふ坂の関　・霞　新勅 花・旧 鶯・新 雪　柳・呼子鳥

清　・湖水　新 紅葉・拾 月・旧 雪・名 松　堀 網道・雨　関の

古
清水　関[illegible]　岩あふれて　松村　松原　ゆふつけ鳥

千
関の杉　・新後 手向の杉　・夜半の琴　関の戸

古
関のとざし　あかさ　関の小川　旅人　網[illegible]

於
きりの網　・古 月網　・名 関風　・拾玉 淺見のあしら網

・山　新勅 あり・関山・関の山・しの小山　関川　宗尊[illegible]

・関の小川　・関寺　音羽山　続古今　あひ坂　旧

古今
あふ坂の関し海さし北[illegible]あけてゆるて君をよ　よみ人しらず

日 [illegible]

武蔵 [illegible]

〃 [illegible]

[illegible]

佐渡 今瀧 あふちの実　川蜷　山 日

名寄 [illegible]

陸奥 今津 あいはらの実　川蜷　山 日　里 日

家集 [illegible]

長門 赤間 あかまの実　紅葉

家集 [illegible]

播磨 朝倉 あさくらの実　[illegible]　語り　河骨　木の丸殿　山鳥

・[illegible]

赤間 赤良間 ・あからの実　[illegible]

駿河 清見 きよみの実　・霞　花　月　[illegible]

・松・雪・雲・ちどり　[illegible]

[illegible]

[illegible]

紀伊 紀 こきの実　[illegible]

[illegible]

見目 みめの実　[illegible]

肥前 見都寄 みやきの実　[illegible]

下野 ・みかほの里 美加保
[illegible]
陸奥 しらかはの里 白川
・霞・鶯・花・卯花・紅葉・月・時雨
・しぐれ 時雨・落葉・雪・氷・霰 雲居
[illegible]白川の[illegible]
[illegible]白川の[illegible]
[illegible]白川の里の[illegible]
て[illegible]
下総 ・したひもの里 下紐 ・雪 ・文附島
[illegible]
[illegible]
播磨 しきなみの里 敷浪
[illegible]
紀伊 しらとりの関 白鳥
[illegible]

摂津 ・ひとめの里 人目
夫 あづまぢのひとめの[illegible]
豊前 もじの里 門司
[illegible]
・玉はき
[illegible]
摂津 すまの里 須戸
・松・桜・萩・紅葉・月・千鳥
・海・浦 [illegible]
[illegible]
伊勢 鈴鹿 すゞかの里
・花・関屋・瀬・山
いつれも[illegible]

・うつゝにもあらでこれやすゝかの里あらんよりはなくて紀の浜の浪かな

○森

杉むらの森　森の下草　―の下露

―の木陰　―のこずゑ　―の木がらし　―のしめ縄

―の梢　―の下草　神のます森　・ありしの一村

これなり　類林抄によるに林よりはしげくて後ある所

あまくだりまします神をまつる所なり

たゞすの―　くるすの―　うきたの―　ちかつの―

うつしの―　よひその―　をとこの―

ゆふしでの―　足かの―　右八雲御抄

いはせの―　いくたの―

神山の―　ゆふしでの―　たゞすの―　未詳―　ふるの―

おほあらきの―　みかげの―　右藤原末に出でたり

いはせの杜　岩神　かげの下露　・しのはら

・岩瀬のもりの下露ゆふつけてたれ人のすゞしめけむか　恵心

いくたの杜　石田　・ふしみの・山城の―とつけたり　とこよれ

呼子鳥・初子　・月露・あかし・杵・月

吾妻・ちくれ・逢坂山・さゞ浪　かしは原

郭公　関月

夏　山城のいくたれまはうきたにけてはまれて小夜ふるも

いそのの杜　神なびの―　とのこれ―をとつけたり

鶯　呼子鳥　河鳥　蝶・紅葉・月・紅葉

新拾遺
・えんこゑるとほこえやすらふの里あはれなり捨てし花の陰かな　為家

○森

林しの森　森の下庵　しの下露

・原 同 ・しのびね 五 杉葉 松 こがらし ・いとしぐれ
杜の露 ・しぐれ ・さとゐ ・立田川 ・あしかき
野 山鳥あり 川 同
夕されば杜の木陰の涼しきにいとひし人も立やすらはん
いくたの杜 生田
・若葉 ・時雨 ・雪 ・こがらし 杜の秋風 ・雪
・雪の下葉 ・ほとゝぎす ・山鳥あり ・海 同 小野 同
池 同 川 同 里 同 浦 同 ・明石の浦 ・難波の芦 同
君すまばとはましものを津の国の生田の杜の秋の初風
いはその杜 時雨 桜 ・紅葉 ・松 ・杜の注連縄
・野 山鳥あり

ときはなる杜の木の葉はいかなれば秋のしぐれもしらずがほなる
同 呼子鳥 ・時雨 ・郭公 ・紅葉 ・杜の注連縄
山 鳥あり 岡 同 関 同 里 同
陸奥のいはての杜のいはでのみおもひはくらぬ人やわすれん
いぶきの杜 伊吹
山 鳥あり 里 同
人をしも思はじといぶきの杜のまさきの葛
いはしろの杜 岩代
野 鳥あり 浜 同 岸 同 尾上 同 松 同
いはしろの杜のいはじとおもへども問はれぬ身をいかにせん
・いくりの杜 行入里
萩 同
さくらの杜の萩の花今ぞさかりにみえわたりける
いでいりの杜 出入
雑にいでしを問へば人の声さきけしきの出入の森

同　いはたの杜
　鶯のなくねはすれといはたの杜の紅葉かつちる
同　いくたの杜
　秋風にさそはれわたるいくたの杜の[illegible]
　・ときはの山・呼子鳥・霧・紅葉・月・時雨
摂津　そてふるの杜
　・霜・竹の下道・岩かね・下葉・嵐・秋風
　・いはせ川・山　あり
同　いはれの杜
　いはれへの君をみちとる柏の葉乃うすくこかれん
同　ほつりの杜　わくらは・紅葉・霜
　忘られてさる頼のしるへや有をくらの杜にいかゝ
・をかたの杜
　[illegible]
　ときはの杜　鶯・柳・花・藤・郭公・みそか・月・雪・しくれ・松・下葉・枝葉

しめ縄　雲　山　あり　里　林
　[illegible]
・とりきの杜　里　あり
　露しくしあれぬ[illegible]
　をとうれの杜
　[illegible]
・くらの杜
　[illegible]
　わかまつの杜
　二葉なる松の[illegible]
　くさかの杜　露　時雨　蝉　[illegible]
　・月・しくれ・雪・松・もと[illegible]しめ縄
　・杜乃下・入佐川・神　あり

新古
かくさえぬまつかくは斤岳の森は宗に立やかれなし　和泉式部

多くもしられけり

森　柏
うへの杜　社　亦名あり

新六帖
きみがためしげきためしなる世への杜こゝろかうかう埋されけり　知家

・かみなびの杜　神南備　古　しぐれ　紅　落葉

古今
神な月しぐれもいまだふらなくにかねてうつろふかみなびの杜　読人不知

春
同　かみなびの森の杜とも　・岡　同　・渕　同　・御田　同　・神　同
紅葉　あらし　・山　亦名あり　・里　同　・川　同

宗清百首
立田姫手むけの錦を染つくし植よけにけるかみなびの杜

月
かすがの杜　春日　名　春日野の杜とも又春日野の杜　後今に詠むのりとも　梅

名寄
おのれ春日野の杜は春日野杜へ花やさきとこそあらん　忠房

月
かしはぎの杜　柏木　落葉　・若葉　・時鳥　・月　続古　・時雨　・あられ　・雪　拾遺　下葉　・松　同　・紅葉　・三笠山

拾遺
人しれずたのめしことは柏木のもりやしぬらん世にふりにけり　右近

河内
うゑきの杜　河田　秋　新古　紅葉もよかり

・冬の夜のさえさえとして冷されへ河田の杜に霜しれけり　兼仲

摂津
かみなびの杜　神南備　新勅　・しぐれ　紅葉　・落葉

新勅
かみなびのこずゑの嵐に宿かりし紅葉の秋もさそひはてなん　長家

伊勢
うせ乃杜　凡　式子内親王　さくら

名寄
・うみべの風の杜かげはいつもさそてかはる色に染けり　仲実

陸奥
かたらひの杜　語　一本かたらひの杜とあり　・岡　亦名あり　・山　同

六帖
かたらひの杜のこのは数ならぬもろひのあれ松そかひしぬ　大伴女郎

山城 吉田
よしたの杜 森 ゆふすゝ 里 名所あり 宮、同 村、同 野 同
拾遺 まへはよしたの杜乃森の花つてそめ中れえそそまつ 貞文
摂津 依羅
よさみの杜 松 杉
家集 君か世ハよさみの杜乃そのまへ松と杉とやかさひくらん 定家
未勘 吉忠
・よしたゝの杜 名寄 よしたゝの杜の下草しけりはの宿 貞任か
丹後
たちの杜 一本 多田須 歌枕 呼子鳥 六 時雨 九 ひくらし むし 千鳥
・朱の玉垣 名寄 ゆふすゝ 川 名所あり 天 同 神 同 かむ岩川 後拾
新古 似をたちの杜のゆふすゝかけてちらへ秋をおもふ 貞文
大和 立田
たつたの杜 山 名所あり 原 同 川 同 岩 同 道 同 里 同 原 同
夫木 山城のたつたの露とくて立田の杜ハ神さひにけり 保元
同 高間
たかまの杜 峯、山 名所あり 麗、同 川、同 原、同 野、同 宮 同

摂津 垂水
たるみの杜 さわらひ
名寄 くさ深よこゐ君か杜のはゝく秋はあかぬたえかき 後拾
夫木 ・うらくかしたるみの杜乃さわらひれおりこれやはなのくさらん 後拾
伊賀 誰其
・たそれ杜 名寄 さ乗けれの杜の河ちらん家りけそもみね 為家
未勘 田中
・たなかの杜 名寄 葛 同 かね縄 方字 里人
名寄 山深れ田中れ杜よ志めんて夕ゝ里人乃神さはりぬ 為家
伊勢 月読
つきよみの杜 神 宮 書 月
新古 さやかなるつきよみの杜の井よりも影やらん厚月後の霜 西行
未勘 眠
・ねふりの杜 名寄 せしくるねふりれ杜の下れ杜もかくまつるれかれ 後拾
河内 波激
なみさの杜 久しかなりしけん浦のかなくつけゝり
夫木 桜 後拾 名乗・志くれ 思 名所あり 宮 同

後拾　村すゝきかりてみんとのかへさの森にあるかなきかの　為家三百首

・母　長田　なかた社　新葉　今さらにあさての杜乃あかつきハ夜ふかき君か宿とこそきけ　内裏

紀伊　哭沢　なきさはの杜　万二　なき沢の森にみわすゑいのれともわか大君ハ　高

大隅　奈毛木　なけきの杜　名　郭公　柏　蝉　令　月　現　さゝくろ　しめ縄

古今　ねきことをさのみきゝけん社こそはてはなけきの森となるらめ　さぬき

・あるしれ社　千五百　みな月のなこしの杜のゆふすゝみまた秋のかせそふくなる　季能

月　流木　なかれきの杜　ままき　水の川瀬の今は流木の森まてもゆるかゆる蔵

浮田　うきたの社　後撰　大荒木の杜乃浮田見え　万　大あらきの

・紀伊　もしかれ大　令　時鳥　霰　月　後千　千鳥　・後　五月雨

葉　さゝは　後撰　もみち　柏葉　吟　埋木　後拾　しめ縄　千五　秋風

・家　和歌

後拾　坂　山城　人よりハ浮田の杜乃ありと見る　後撰

新葉　うきたの杜　川　和歌

・いかにせんうきたの森にすむ君か心のうちにいつかはあらん　後撰

名寄　外名手　うなての杜　万　ゆふかけてとりつくしてもうなてのをやのかたへ

又神乃ますしるしもなんそ引しるも

正　・雲雀　栢　・月　・村雨　千鳥　万　菱

万十二　・松のはなとなへてくれからすむそての杜れ神そしるらん

夫木　野中　・のなか社　吟　蜩　河鳥　月　松虫　下葉

玉吟　夜の月乃野中れ杜乃しめなはにうすき人の袖そ出すらん　家隆

山城　大荒木　おほあらきの杜　おほあらきのもりの下草華河のうへにうつろふ

おほあらきのもりの万なふの布にうつりて杜あれ

くあり・大あらきの浮田の杜とも　河辺・手向
・さみだれ・納涼　くも　紅葉　落葉
・月・時鳥　杜の下草　・里・野月

古今
大あらきの森の下草生ぬれば駒もすさめずかる人もなし

武蔵　大我井
おほがゐの杜　紅葉　ゆふだすき
・うみちかき大ゐの森のゆふだすきかけてぞ頼む神のみしるし

近江　老曽
おいその杜
　鶯　花　老の述懐にそへておもひ語り・霞・こよひ
・露　雪　下草　ほとゝぎす　・紅葉　蝉　紅葉　しぐれ・春
しめなわ　里あり・浅山　続古今
・年ふれる老曽の杜の下草はいつともしらぬおまつやまぬせん

思
・おもひの杜　身にしむは浅茅が露とおもひの森のたよりなり
出雲
・くもの杜　村雨の時雨の杜も秋の紅葉の深き人
紀伊　山邊
やまのべの杜　・おせみの花・桜・雲　ほとゝぎす
・おのれ杜の梢のしらぬとねくらもとめてゆきてかへる
山下
やましたの杜　うゆきは松のあらしにつきて椙むらの杜
気色
けしきの杜　・大隅の・はるかなるしるしつけけり
　蕨　かくきは　蝉・納涼　月　ひさし　紅葉
・月・雪・しぐれ　鶯　下草　霰
・秋のしげきの杜の下風にそよぎのはあまたかかり
藤
ふぢの杜　・深草　続古今
はふのさとよそにて見つるはまきの杜の森をおくる

歳 木幡
・こはたの杜 六帖 山科のこはたの杜はいかならんかゝるにつけて人そ恋しき
月 久我
こかの杜 六 月 紅葉 時雨 里 淀 後合
宮居
・ふるきもいにしへの杜よりこの杜のまへの杜もおなしかなくに
衣手
ころもての杜 花・名 長居・螢・後拾 蝉 河原・康 後拾 紅葉
後拾
・河原・雪・霜・氷・吟 月 雫 小野 名寄 里
後拾
おもひにもゆるくすのきの下にあふことはそのかみ
君更 急
こゐの杜 しの濡とも後り 名寄
又本
歌のこ我身ひとつよ数ならぬ我はつれなくもあらめ 浮世
後拾 木枯
こからしの杜 紅葉・柏 月・雪 志くれ・霜・後拾 雪
六
身をこからしと後り
胎
・こからし杜の下葉風にそよく人のなけきはせきそひにけり 後人公忠

伊豆 古々井
袋草
こゝゐの杜 秋 かくきえし・月 雫
ここにふるまてくらぶるまてこゝゐの杜はいかてそ 躬恒
越中 木葉
このは杜 紅葉 秋 落葉 里 名寄 有 秋 ・この山 後合
夫木
・ちりくるものまよりしくれにたちまさるおとせぬ木の葉この杜もちらて 夫木
摂津 手巾
・てこの杜 名寄 月見にてとて紅葉もゆくまてきらしたまひしの山
歳 雨
おふの森 主水 このもとをぬらさぬほとの杜すそかはいはすと 後合
伊勢 哀其
あはれの杜 名寄 うちしくれ木のは吹あらしたえまなくてそ
尾張 阿波手
あはての杜 不合恋中にふしせて後り 名寄 わたらしの一かたく
月
つきかり 呼子鳥・つゝし 紅葉・建 草
月
蝉 康 建 紅葉 こかし
未載
・うら枯て人もこすゑのなけき社こそいまさへの杜となりにけれ 林葉

近江 あをやぎの杜 青柳　橋 哀傷あり　里 同
世の中は絶えし人こそなけれどもまた出くるあを柳乃杜　匡房
下 あはづの杜 粟津・葛・月・しぐれ・鷺　野 哀傷あり　原 同　里 同
・関こえてあはづの杜のあはれどもなみだの影をうつすなる　読人不知
駿河 あさまの杜 浅間　おちこちに隠れて河るる杜もさまの杜よ鳴るなれ　家隆
山城 きたの杜 北野　河る　若葉・宮 哀傷あり・原 同
松がねよその若葉も一本して出雲の杜にかへさかるかな　寂蓮
万木 ゆうきの杜　蝉　千鳥　村雨　まくら　鷺の鶴　原 哀傷あり
千載 ・名所はかくしとひゆうきの杜すてゝ行く鷺にしぞやどすめる　中宮亮法師
丹波 ゆきあひの杜 社合　風ふかば何を手にやことかとする人影もなく縫ゆの杜　為家
下 ・ゆめの森　待ちよりてまくらむなしみむすぶる夢の杜まで今ぞ鳴るなる　法性寺入道

越後 みおやの杜 御祖　橋　神　原 哀傷あり
新古今 いつしかをとまるかみおやのまれに白雪ちるらん　名
同 みつの杜 美津・あやめ・蛍・若葉・鶴　野 哀傷あり　牧 同
川 同　江 同・浪 同・里 同
拾遺 あやしくは涙よあつかみつの杜ひとよせんにはしの御
三笠 みかさの杜・鶯・花・夜・河る　若葉・雪・しめ縄
同 ・きりがくしとつけたる
新古今 神もなくみかさの杜の夜の花むの波まてかくみかこの紙
都 みやこの杜 宮古木・野 哀傷あり・原 同・里 同・ゆふぐれ
新撰 まちゆむことのなかをとるしてみやこの杜のなかとるころ
続古今 みかさの杜　大荒るかしと読り　若葉・しぐれ　名 知りかし

神・ゆふしで・このま・続合・山家あり

続千載
いかしねをこふといのるも大和なるみかさの杜の神そしるらん　大僧正

拾遺
・みかけの杜　康　世をわたる人の心のみかけの杜は世をも守らん

夫木
・つかく杜　耳　名寄　うき旅ねすきつらんひろきすみとも千年の神　大伴

月
・みかの杜　待　夫木　無名のみかの杜はゆふしてやゆかり立つけてしらる　ええとし

新千
しのたの杜　信太　ちえ枝にちりてもとの木をはなつてくの杜よりの
もてらるらん　一本の桜　よふてより　なけ　せき

建
蛍・白鷺・萬　続古　名寄　落葉・月・しくれ・雪

夫木
・笹・くもの木・下葉・村雲・霞・里　六　吟　続古　続拾　山家あり

六帖
いつもみる信太の杜は梢のちえてかれく物をそそおもふ人

新後拾
しのくの森・紅葉・しくれ・下葉・はくさ・続合・山家あり

円井　月

後拾
月やこの河の名もゆきふりて杜の秋のよもみちら茶　天内下更

信実
しのかれ杜　信ま　呼子鳥・むくきを・納涼・落葉・続古

続拾
・木下・しくれ・まつ・下葉・山家あり・月・酒　月

里　月　原　月

千載
いはくもかる風のちしらん社もしのかれ杜のよの茶　隆房

夫木
しかの杜　茂　名寄　とふとて仰きさるに深山あるしかの杜へ我とをるらん

新葉
ひのめく杜　平野　梢　神　夫木　文　月　社　月　山家あり

新後拾
梢よる卯月ともしらん人もひるの杜にゆよりてきて　二條中納

名寄
すきの杜　相　松村の杜　なけ・露・霜・雪

玉吟
添みしの梢へたすきまくく枝のよもの杜宿しるし見えのへれ里　よ　吟　家隆

・末初 須留毛宜 すゝりゆの杜 名寄 よゝ中なひきぬ路者乃はかるゆすかまの杜

・同 裾野 すその乃杜 忠教 夜ふく成けりなかなきすゝみ乗乃浅乃下葉 為氏

○林

・松林　・林ゝしめ 林をはけしめてそやすと いふとぞ　・林泉

・緑の林　・竹の林 崇 そ波のきさ 木のもとにき あり 八雲 竹の林

同 鶴乃林 仏滅江あり 夫 木の葉の林 夫 星の林 星のあかく あるをいふ

永仁 くら林　ミ山林　里乃林　雪の林 得云 花の林

雪 玉の林 夫 雪の葉乃林

林といふ縁ハかく木のしげきをいひて林といふ 好むる説有るより縁林ならぬ木のあまたあつまれるを云るなりと

・六帖 常盤 ときは林 夫 さくのあるときは林の名にして秋風ぞふく 定経

同 月 つきの林 拾遺 ひかりすむ都のうちの月の林乃かけにいつるは 俊生

同 雲 くもの林 雲林院にあり古ヘにほひ 柳 桜 あをち

蛍 厂 六 紫 寺 あり 嵐

京人まき林院にて 桜散花の所を雪を降りて消えて有する 永く法師

同 旧いふれも花のまとゐり まひ人のはなてある木のもとハ散けなく花そちりける 遍昭

・夫木 江 江の林 万七 えの中にゆくなつも波かぶ北の風袖をあけて 下路

・夫木 伎倍 きへの林 万十四 あるまたきへの林にかゝなつまでいそきそらぬ 家成

・夫木 雪 ゆきの林 名寄 その雪やけさハ白ゆく雪乃林の又尾乃あけれの 土御門院

第 6554
受
昭36.3.14